SPORT
FOR
TOMORROW

Sharing Athlete

専門性の融合、
より良い社会の実現

Shared Goal, Shared Mission

FOR THE REAL CHAMPION

SPORTS PHARMACIST

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

〒115-0056 東京都北区西が丘3丁目15番1号 国立スポーツ科学センター内
TEL.03-5963-8030 FAX.03-5963-8031
c/o Japan Institute of Sports Sciences,3-15-1 Nishigaoka,Kita-ku,Tokyo 115-0056 JAPAN
TEL.+81-3-5963-8030 FAX.+81-3-5963-8031

URL http://www.playtruejapan.org/

文部科学省委託事業

JADA PLAY TRUE
Japan Anti-Doping Agency

未来への可能性をつなげる
専門性の融合
Innovation is Creation

現在、社会もスポーツもより多様化し、複雑化する傾向にある。

スポーツにおけるドーピングの問題は、社会の発展とスポーツの発展とが連動し、
お互いが「写し鏡」のようになっていることが関係しているとも言える。

アンチ・ドーピング活動は、クリーンなアスリートが、自身の可能性を最大限に発揮できる
フィールドを常に担保し、社会の共有財産であるスポーツの価値を護り育むという、
スポーツの領域に限られた活動ではない。

ドーピングの問題は、パブリックヘルスに係わる社会として取り組むべき課題でもある。

市販薬だけでなく、研究段階で安全性も有効性も実証されていない薬が乱用されていることがある。
人の健康を護り、病気やケガを治療するための医薬品が、その本来の目的としてではなく使用され、
乱用されることは、重大な健康上のリスクをもたらす可能性がある。

また、このようなドーピングの問題は、競技レベルを問わず、学生スポーツにまでも及んでいることで、
世界共通の社会的課題ともされている。

日本では、専門性を持つものたちが各々の領域を越え、知恵と自身のミッションを認識・共有し、
専門性を融合したイニシアティブが生まれ、アンチ・ドーピング・ムーブメントが推進されている。

社会における「真のチャンピオン」に全ての人がなることができ、そしてより良い社会を実現するために。

1988 ソウル
1992 バルセロナ
1998 長野
2000 シドニー
2002 ソルトレーク・シティ
2004 アテネ
2006 トリノ
2008 北京
2010 バンクーバー
2012 ロンドン
2014 ソチ
2016 リオデジャネイロ
2018 平昌
CONTINUED→

1999
スポーツにおける
アンチ・ドーピング世界会議
第1回 World Conference on Doping in Sport 日本参画

1999.11.10
WADA設立

2001
2001.9.16
JADA設立
日本のアンチ・ドーピング体制の整備

JADA PLAY TRUE
Japan Anti-Doping Agency

2003
第58回
NEW!!わかふじ国体（静岡）から
ドーピング検査導入
薬剤師会がアンチ・ドーピング活動へ協力

世界アンチ・ドーピング規程採択

2005
ユネスコ
スポーツにおけるドーピングの
防止に関する国際規約採択

2006
薬剤師養成のための
薬学教育6年制開始

薬種商販売業の廃止と
登録販売者制度の創設

日本国政府ユネスコ
国際規約締結

2007
スポーツにおけるドーピングの
防止に関するガイドライン策定

マドリッド宣言
2009Code採択

2009
「公認スポーツファーマシスト
認定制度」開始
JADAが日本薬剤師会と
共同し世界に先駆けて創設

SPORTS PHARMACIST

登録販売者制度の施行

2010
公認スポーツ
ファーマシスト認定者誕生

2011
スポーツ基本法成立
「ドーピングの防止の重要性」についての言及、
クリーンで公正なスポーツの実現を目指す

2012
WADA・IFPMA・BIO共同
「2つのフィールド1つのゴール」
キャンペーン立ち上げ

2013
Global DRO
JAPAN開設

ヨハネスブルク宣言
2015Code採択

スポーツファーマシスト
e-learning導入

TOKYO2020決定

2014
一般医薬品の
インターネット販売開始

Sport for Tomorrow開始

2015
第2回製薬業及び
アンチ・ドーピングに
係る国際会議

2015Code施行

2020
TOKYO

公認スポーツファーマシスト誕生
JAPANイノベーション：課題への対策と社会的責任

公認スポーツファーマシスト制度は、スポーツのインテグリティー（完全性／高潔性）、公正・公平、平等性を担保するための責任を有するアンチ・ドーピングの統括団体であるJADAと、医薬品に関する社会的責任を果たし、医療の担い手となる薬剤師を束ねる日本薬剤師会がパートナーシップ関係を構築し、世界初となる制度として、2009年に立ち上がりました。

世界的なアンチ・ドーピング・ムーブメントの萌芽を受け、日本国内のアンチ・ドーピング活動の拡充が進められる中、アスリートやサポートスタッフが、医薬品の専門知識を持ち、最新のアンチ・ドーピングに係わる情報・知識を持つ専門家に対して、常に安心してアドバイスを求めることができる体制づくりの必要性が高まってきました。

それと並行して、薬剤師の重要なミッションである「適切な医薬品の供給」は、「医薬品の適正使用」と「薬物乱用を重大な社会問題としてとらえること」であるとし、日本薬剤師会とJADAが、ドーピング問題への課題や認識を共通して持つことになります。

持続的、発展的な活動を目指して、JADAと日本薬剤師会がお互いのミッションを共有し、個と個のつながりに留まらないその領域に責任を持つ組織同士のコラボレーションを通して、お互いの専門性と強みを最大限に共有・活用、そして融合したスポーツファーマシスト制度が誕生しました。

“スポーツ”+“ファーマシスト”

公認スポーツファーマシストとは、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が認定する、
アンチ・ドーピングのルールに係わる最新で正確な情報・知識を取得した薬剤師のことです。
薬の正しい使い方へのアドバイスや、薬に関する健康教育の普及・啓発を行うことを主な目的としています。

「スポーツファーマシスト」としての三大意識

◎アンチ・ドーピング活動への共鳴
◎スポーツのルールとして禁止される物質・方法について、自ら知識と情報を獲得する努力
◎競技レベルや対象者に合わせた適切な情報の提供

スポーツファーマシストによるアンチ・ドーピングムーブメントの展開

アスリート、保護者とのアンチ・ドーピング・ワークショップ

薬に関する相談対応

アスリートや一般への情報発信のためのアウトリーチ

スポーツファーマシスト同士の自己研さん研修会

JADA公認

対象者	受講開始時点で薬剤師の資格を有するもの
認定方法	講習会（基礎・実務）受講および確認試験の受験
有効期限	認定から４年間　※継続要件あり

スポーツファーマシスト資格認定までの流れ

認定までのスケジュール

新　規

4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月　4月

募集開始 → 基礎講習会 → eラン実務講習 → 確認試験 → 認定申請 → 認定証発行 → マイページ付与 → 検索サイト登録

受講料：7,400円

認定料：20,500円（4年間有効）

認定後

継続要件

◎毎年、e-ラーニングの実務講習を受講

e ×4回（年1回）
実務講習

更新要件

◎認定期間中の4年目にe-ラーニングで、基礎講習と実務講習を受講
確認試験に合格

e 基礎講習 ＋ e 実務講習 ＋ 確認試験 ＋ 更新料

基礎講習
スポーツのルールと
スポーツファーマシストとして
必要な情報
◎アンチ・ドーピングのルール
（規程、禁止表、TUE）
◎スポーツ倫理と
薬剤師倫理の違い
◎アスリートの体験談

実務講習
最新の情報に
知識をアップグレード
◎禁止表国際基準
◎TUE国際基準

認定ステッカー

認定プログラムテキスト

認定証

スポーツファーマシスト・マテリアル

「価値観を共有したパートナーシップ、ドーピングというパブリックヘルスの問題に立ち向かう」

アンチ・ドーピング活動の基本は、「スポーツの価値を護ること」と、
「フェアなアスリートを護ること」です。しかし、**ドーピングは単にスポーツ界の問題だけでなく、社会的かつ大きなパブリックヘルスの問題として考えなければならない**と思います。
そのためには、薬の適正使用を実践・指導する役割を担う薬剤師の先生方との連携が重要であり、
協調して取り組んでいくことが、我われが目指す「スポーツの価値を護ること」に
つながっていくと考えています。
スポーツやアンチ・ドーピング活動に携わる人々には、
「我われが取り組むアンチ・ドーピング活動、つまりスポーツの価値を護るということの先には、社会全体の福祉がある」という大きな観点を持って欲しいと
思っています。また、医療の現場に留まらず、若い世代に対するアンチ・ドーピング教育
という現場でも活躍していただきたいと思っています。
スポーツファーマシストのように、スポーツとは一見直接関係のない薬剤師の
先生方が一緒になって**アンチ・ドーピング活動を進めるムーブメント**を、
日本だけではなく世界的なムーブメントとして拡げていきたいと考えています。

鈴木秀典氏
公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構 会長

「アスリートが安心して競技に臨むことができる、身近で貴重なサポーター」

私が現役を始めた頃は、スポーツファーマシストというシステムはありませんでした。
ドーピング検査で違反にあたるかどうか分からないので、薬を飲むことを諦め、
痛みを我慢したこともありました。アスリートは自分で自分の身を護ることが本来の姿。
いつでもどこでも問い合わせができる環境が整い、
薬について必要がある時にすぐに相談し、一番初めに解決できる
スポーツファーマシストの存在は、安心で非常に貴重です。
フェアに戦わなければいけないのは、ジュニアのアスリートや大学の同好会であっても同じこと。
社会の中にはルールがあり護るべき規範がある。
アンチ・ドーピングはその中の1つであるということをもっと身近に感じて欲しい。
身体があってはじめてスポーツができることの意味を、スポーツファーマシストには教育して欲しい。
アンチ・ドーピングは**クリーンな世界**を目指し、
アスリート、指導者、家族、サポートする人など、
すべての人がワンパッケージになって取り組んでいくべき問題だと思います。
スポーツの現場だけがフェアという概念を発信しているわけではないこと、
スポーツファーマシストという画期的な制度があるということを、
国境を越えて多くの方に知って欲しいと思っています。

室伏由佳氏
公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構 アスリート委員

「薬の適正使用の普及、そのレベルの維持・向上高度化した活動を推進し、スポーツの健全性を保つ」

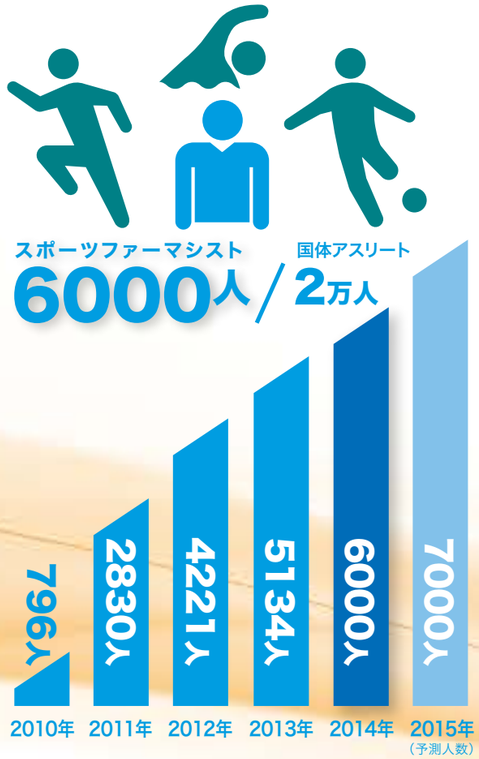
薬剤師という存在はセルフメディケーションの中で、
薬物や薬を適正に使ってもらうことが大きな仕事です。
社会的に薬物乱用という問題がありますが、ドーピング行為というものも、ある面では
薬物の乱用ということになるわけで、薬の適正使用という観点からすれば
JADAの活動と薬剤師の本来持っている専門的知識を使った活動は同じであり、
お互いに専門性を共有し、薬剤師がスポーツに関わることができるのだと思っています。
スポーツファーマシストという専門的な知識を持った薬剤師が、薬局をはじめ日頃の活動の中で
アスリートやスポーツ関係者に対し、自分の知識を使って相談に乗るといった、
スポーツの健全性を保つために薬剤師ができること
をやればよいのではないかと思っています。
スポーツファーマシストとして得た知識を活かして
日頃の仕事の中で相談にのり、地域の活動を通して地道な活動を
していくことができればよいと思います。
今後スポーツファーマシストが活用されるような環境創りは
私どもの仕事でもあるし、さらに活躍する体制を、
JADAと協力して作っていきたいです。

石井甲一氏
公益社団法人 日本薬剤師会 副会長

「薬の最新情報を熟知したサポートスタッフを育成する、2015 Codeにもマッチした制度」

スポーツファーマシストは、ドーピングへの取り締まりが強化される中で、
アスリートが安心して質問できる存在です。薬やサプリメントについて、
いつでも気軽に使用の可否を確認できる存在がいることは非常に良いことです。
また薬剤師側から見ると職域が1つ増えたということは、大きな意義があると思います。
ある薬の使用にあたり、それが禁止物質かそうでないかを
一番適切に判断できるのはやはり、薬剤師だと思います。
2015年1月1日から施行の世界アンチ・ドーピング規程（Code）においても、
サポートスタッフの役割と責務が大きく謳われています。
薬の使用はアスリートの自己責任ですが、自分が使う薬について調べるにあたり、その
パートナーとしてのスポーツファーマシストがいることを
広く伝えていくことは、とても大切です。
ドーピングをするつもりなどまったくなかったのに知らずに
違反になってしまったら、それはみんなにとってとても悲しいことです。
自分の口にするものはすべて自分できちんと管理すること、
自分で責任を取るための教育と並行して、私たちスポーツファーマシストが
そばにいるということもしっかりアピールしていきたいです。

上東悦子氏
独立行政法人 日本スポーツ振興センター
国立スポーツ科学センターメディカルセンター 薬剤師



Global DRO

Global Drug Reference Online（Global DRO）とは、イギリス、カナダ、アメリカおよび日本の4カ国で運用し、現行の禁止表国際基準に基づいた禁止物質や各国の医薬品情報を検索できる、グローバルなサイト。

社会における
真のチャンピオンを目指して

専門性を融合し、共通のミッションを達成する

「スポーツ」「アンチ・ドーピング」と「薬剤師」という、一見交わることのないような2つの専門領域。

それらがお互いのフィールドを越え、ミッションを共有し、融合する、

それがスポーツファーマシスト制度。

スポーツファーマシスト制度を通して、より良い社会が構築されることを目指す。

スポーツの価値やインテグリティーを護るためには、

スポーツにおいて禁止されている物質の不適切な使用や

乱用が無いことが、重要である。

様々な領域からの想像力がお互いを結び付け

自身の最大限の強みを発揮し、

相乗効果が生まれることで、

専門性を越え、さらに国境を越えて、スポーツを通した社会の発展へとつながっていく。

進化し、発展するサポート体制

アスリートファースト、スポーツの価値を護り育む

JADAのヴィジョンは、「真のチャンピオン」を育てること。
そのためにアンチ・ドーピング活動を推進し、アスリートへのサポートのみならず、スポーツの価値を護る活動を多面的に展開しています。

アスリートがおかれた様々な環境の中で、クリーンなスポーツに参加する個々人の権利、また他者が持つその権利を護り、さらにアスリートが役割と責務を理解し行動できるように、多くの情報の中から自身で判断できるためのサポート体制の整備・強化を進めています。

スポーツファーマシスト制度を通し安心して専門家に相談ができ、いつでもGlobal DROシステムを活用できる環境、薬の成分に禁止物質が含まれているか否かを検索、結果を共有・確認できる体制。このサポート体制は、アスリートや、サポートスタッフらが正しい判断をするためでもあり、アスリート自身の健康管理やセルフメディケーションにもつながります。

JADAは、**“Anytime, Anywhere, For Anyone”**をテーマとして、クリーンなスポーツ、クリーンなアスリートを護るための体制づくりをより強化し、これからも進化し、革新的なサポート体制の構築、ムーブメントをさらに先へと進めていきます。